

平成 17 年度食品安全モニター会議について（報告）

1 開催趣旨

平成 17 年度食品安全モニター会議については、モニターの方々に、食品安全委員会の取組や食品健康影響評価の実際などについて、知識や理解を深めていただくとともに意見交換を行うことを目的に開催した。

2 開催状況

平成 17 年 6 月から 7 月にかけて、全国 7 都市において計 10 回開催し、合計 397 名の食品安全モニターが参加した。

3 会議概要

会議は、大きく 2 部構成で行い、第一部では、最初に食品安全委員会委員より、「リスク分析の枠組みと食品安全委員会の取組について」、続いて事務局より、「食品安全モニターの活動について」説明を行った。また第二部では、個別分野を取り上げ、専門調査会委員より、「リスク評価の考え方と実際について」説明を行った。これらをもとに、食品安全委員会委員、専門調査会委員等とモニターとの間で活発な意見交換を行った。モニターからの主な意見等は、別紙 1 のとおりである。

また、会議には、厚生労働省、農林水産省も出席し、リスク管理施策等幅広い観点からの意見交換に参加したところである。

なお、今後の会議等の運営に当たっての参考とするために会議終了後にアンケート調査を行った。その結果は、別紙 2 のとおりである。

開催日 開催場所	モニター出席者		リスク評価の個別テーマ (第二部)(出席専門委員)	出席委員
	対象地域	人数		
6 月 3 日(金) 東京都(東京 1)	東京都、山梨県、長野県	43 人	新開発食品 (上野川修一専門委員)	寺田雅昭委員長、 小泉直子委員、ほか
6 月 10 日(金) 東京都(東京 2)	千葉県、神奈川県、新潟県	47 人	遺伝子組換え食品等 (日野明寛専門委員)	寺田雅昭委員長、 寺尾允男委員、ほか
6 月 17 日(金) 東京都(東京 3)	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県	39 人	微生物、ウイルス (春日文子専門委員)	寺田雅昭委員長、 見上彪委員、ほか
6 月 21 日(火) 札幌市	北海道	14 人	汚染物質 (佐藤洋専門委員)	本間清一委員
6 月 22 日(水) 仙台市	東北 6 県	35 人	農薬 (鈴木勝士専門委員)	見上彪委員
6 月 28 日(火) 福岡市	九州 8 県	51 人	かび毒・自然毒等 (佐竹元吉専門委員)	寺田雅昭委員長
6 月 29 日(水) 岡山市	中国 5 県 四国 4 県	49 人	農薬 (鈴木勝士専門委員)	坂本元子委員
7 月 5 日(火) 名古屋市	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県	40 人	動物用医薬品 (三森国敏専門委員)	小泉直子委員
7 月 6 日(水) 大阪市(大阪 1)	大阪府、兵庫県(滋賀県、京都府、和歌山県)	43 人	添加物 (福島昭治専門委員)	寺尾允男委員
7 月 6 日(水) 大阪市(大阪 2)	北陸 3 県、滋賀県、京都府、奈良県、和歌山県(大阪府、兵庫県)	36 人	肥料・飼料等 (唐木英明専門委員)	中村靖彦委員

< 食品安全モニターからの主な意見等 >

意見交換の際に、モニターから指摘のあった主な意見等を整理すると、以下のとおり。

1) 食品安全一般に関する意見等（第二部個別テーマ関連以外のもの）

< 食品安全委員会活動全般関係（リスク評価、リスクコミュニケーション等） >

- ・リスク評価には、定性的なアプローチと定量的なアプローチがあると思うが、これまでの食品安全委員会の取組は定性的なものに偏っているような印象がある。（仙台）
- ・食品安全委員会では、畜産系の問題が取り上げられがちであるが、その分、水産物など他の問題がおろそかになっていないか。（名古屋）
- ・食品安全について「科学的には理解できるが不安」とする人は多いので、この点を解消するための取組も食品安全委員会の役割になるのではないかと思う。（札幌）
- ・作っている人や食べる人の手間などを考えると、死ぬまでに大きな病気にかからないのであれば、むしろ農薬も添加物も使ってほしいと思う。しかし白黒の判断のつかないグレーゾーンが多く、情報も少ないため、消費者は理性云々ではなく、本能のまま拒否してしまうのではないか。（大阪 2）
- ・提供される情報やリスクコミュニケーションの場合などで説明する場合は、出来るだけアルファベットなどの専門用語を避け、誰にでもわかる言葉で説明してほしい。（仙台、岡山、大阪 2）
- ・食品安全委員会が行うリスク評価の結果として用いられている「ヒトに対しての食品健康影響（リスク）は否定できない」等の表現は、一般の人にはわかりにくい。（東京 3）
- ・食品安全委員会の取組については、新聞折込や小売店頭での資料の無料配布などを利用するなど、もっと一般消費者を対象に広報の手段を考えるべき。（東京 1）
- ・季刊誌がとてもよくできている。一般の人にも広く提供すべき。（東京 1、東京 2）
- ・季刊誌の「キッズボックス」に「ペットボトルの飲み残しに注意を」という記事があった。このような指摘は重要であり、これからも「キッズボックス」に期待している。（東京 3）

< 食育関係 >

- ・食育もリスクコミュニケーションの一環だと思う。食品安全委員会で、食育について提言して欲しい。（大阪 2）
- ・食育を国民運動として展開していくことが重要。関係省庁の垣根を越えた取組も必要。（東京 1、大阪 2）
- ・食育は大事。特に学校教育での食の教育の普及に力を入れてほしい。学校の先生を啓蒙すること、教科書に間違ったことや過剰なことが記載されないことも大切。（名古屋、大阪 2）

< BSE 関係 >

- ・食品安全委員会には、BSE問題を国際的な輸入問題ととらえがちな行政に対して屈することがないように望む。（名古屋）
- ・米国産牛肉の輸入再開の問題に関して、日本で実施されている飼料管理がアメリカで同様に行えるのかなどに疑問を感じる。（岡山）
- ・肉、骨の発達具合での牛肉の月齢判別をする米国の方法について、本当にそれで大丈夫かどうか疑問を感じる。（東京 1）
- ・米国で2頭目のBSE感染の疑いのある牛が発見された。陽性牛であった場合、今後の食品安

全委員会での審議に影響があるのか。(東京3、大阪1)

- ・米国の2頭目のBSE感染牛が、再検査で確認されたことは問題ではないか。(大阪1)
- ・全国の各自治体で全頭検査が継続されることと、20ヶ月齢以下の牛は異常プリオンたん白質の蓄積量が微量で検査しても摘発が難しいという説明とは矛盾しているのではないか。(東京3)
- ・全頭検査にはどのくらい負担がかかっているのか。(大阪1)
- ・3年間BES検査の補助を行うとのことだが、よりリスクを減らすために、費用対効果の観点からはピッシングの廃止も含めた対策をお願いしたい。(大阪2)
- ・BSEやvCJDは科学的に不明な点がある。その不明な点や現状を国民に情報提供し、判断は国民にゆだねるべき。(東京2)
- ・今後、BSE検査を受けていない牛肉が流通する際には、消費者は何らかの表示で選択できるようになるのか。(大阪1)
- ・「中間とりまとめ」の法律上の位置づけの説明が不十分だったのではないか。(東京3)
- ・未だ学校給食で牛肉が使用されていない例があるとのことだが、安心の観点では当然だと思う。(大阪2)

<その他>

- ・食品安全行政において、食品安全委員会ができ、また、厚生労働省、農林水産省と連携できる仕組みができたことは大変意義深いと思う。(東京3)
- ・新聞の記事で、日本に食品の安全性に関する専門家(研究者)が少ないと読んだが、今後、行政として、このことについて考えていくべきではないか。(大阪2)
- ・食品の安全対策には、生産段階の農家、畜産農家などが安全な「食品」を作っている自覚を持つことが肝要である。国としても「ヨコ」の連携を含めて指導してほしい。(東京3)
- ・安全性の基準について、国際的整合性がとれていないことにより、国際間で様々な問題を生じることにならないのか。(札幌、仙台)
- ・食料品を海外からの輸入に頼らざるを得ない現状を踏まえると、農薬の使用について輸出国に十分な技術協力を行うことや、添加物についても日本で許可されているものを英語で情報提供するといったことも必要ではないか。(東京1)
- ・輸入食品の安全性確保体制について消費者に明らかにしてほしい。輸入食品の検疫所での検査の充実を望む。(東京1、東京3、大阪1、岡山)
- ・食品の製造現場では外国人労働者の増加、高齢化など様々な問題を抱えている。こうした中で想定外のリスクが増えてくるのではないかと不安。(大阪2)
- ・外食産業の原産地表示によって、食品の安全性が確保されることになるのか。(東京3)

2) 個別テーマに関する意見等

< 添加物関係 >

- ・添加物については、毒性だけを評価するのではなく、例えば、リン酸をとり過ぎるとカルシウムが減少するということについても評価してほしい。(大阪1)
- ・添加物一つ一つについて ADI が定められているが、一日に摂取する食料トータルでは問題ないと考えてもよいのか。(大阪1)
- ・添加物や化学物質の安全性に関し、食品に複合的に含まれる場合の毒性についてリスク評価において考慮されているのか。(東京1)
- ・アレルギー問題には食品添加物や化学物質が大きく影響しているのではないか。疑わしいものは完全に排除すべきである。(東京1)
- ・食品添加物のキャリーオーバーについても、表示が必要ではないか。(東京1)
- ・「カット野菜」、「カットフルーツ」の洗浄に使用される次亜塩素酸ナトリウムの安全性について不安がある。(名古屋)

< 農薬関係 >

- ・農薬の安全性評価のためのデータは、食品安全委員会で改めてとり直した方が良いと思う。(仙台)
- ・農薬の複合使用による安全性に不安がある。(仙台、岡山)
- ・新規の農薬だけでなく、既存のものについても再評価してほしい。(大阪2)
- ・残留農薬などについては、使用実態がきちんとなっていないと心配になる。検査の充実を望む。(仙台)
- ・農薬などのポジティブリスト制導入に際して、関連情報などが膨大なものとなり、表示の変更などについて生産者に周知徹底されるまで時間がかかると思う。適切な対応を望む。(仙台)
- ・生産農家の中には、農薬の使用に際して市場に出すものと自家消費するものとを区別していると聞く。農家は農薬が危険と認識しているのではないか。(仙台)
- ・消費者が見た目の悪い農作物より良いものを望むことが農薬使用の背景にあり、これは消費者にも係わる問題である。(仙台、福岡)

< 動物用医薬品関係 >

- ・輸入水産物の抗生物質使用の違反件数が少ないのは、水際での監視が甘いからではないかと不安。(名古屋)
- ・食品中の抗生物質の残留検査の対象となっているのは、ナマの「肉」、「卵」であるが、調理することによって、残留値等が変化することはないのか。(名古屋)

< 汚染物質関係 >

- ・いわゆる環境ホルモンについて、食品安全委員会で検討しているのか。(札幌)
- ・カドミウムなどについて、作物に含まれる量がアメリカと日本と数値がかなり違っている。日本場合は土壌由来のもので、それ以上コントロールできないということなのか、それとも場合によっては化学肥料由来のものなのか。自然界にもともと存在するものを汚染物質と言うのか疑問に思っている。(札幌)

<微生物・ウイルス関係>

- ・ウイルスのリスクは、調理する時間や体調等に依存するので、一元的に示すことは難しいと感じる。(東京3)
- ・今冬はノロウイルスが流行したが、人から人への感染については周知されていなかったように感じた。早めの情報提供をお願いしたい。(東京3)
- ・リスク評価については、リスクが高いものを優先すべき。牛由来ではBSEより、O-157の方がリスクは高いと思う。(福岡、大阪1)

<遺伝子組換え食品等関係>

- ・遺伝子を組換えることについては、次世代までいかないと本当に安全かどうか疑問である。生態系への影響も心配だ。(東京2)
- ・遺伝子を操作するという、倫理問題を解決しないと安心感は得られないと思う。(東京2)
- ・遺伝子組換え表示について、5%であれば含んでいても「含んでいない」と表示できるのは誤解を招くと思う。(東京2)
- ・世界的人口爆発の観点から遺伝子組換えは必要な技術だと思う。その安全性についての広報も必要と思う。(東京2)
- ・害虫抵抗性といった虫さえ食べないような遺伝子組換え食品を、良いように知らせることに疑問を感じる。(東京2)
- ・新潟県では「コシヒカリ」の遺伝子組換えが問題になっている。圃場実験にあたっては、きちんとした説明や新聞での広報は詳しく行うべき。(東京2)

<新開発食品等関係>

- ・特定保健用食品等は、若い世代の乱れた食習慣を補完するものであるが、そういった食習慣を助長することにならないか。特定保健用食品の安全性審査よりも「バランスの良い食事」をとるようもっと啓蒙すべき。(東京1)
- ・健康食品の被害が広がっているが、事前にチェックしてほしい。(東京2)
- ・ダイエット食品で肝臓障害がおきており、機能性食品への不安感がある。(仙台)

〔注〕東京1、東京2、東京3、札幌、仙台、福岡、岡山、名古屋、大阪1、大阪2の記述については、それぞれ東京都(6/3)、東京都(6/10)、東京都(6/17)、札幌市(6/21)、仙台市(6/22)、福岡市(6/28)、岡山市(6/29)、名古屋市(7/5)、大阪市(7/6午前)、大阪市(7/6午後)開催会議での意見等であることを示したもの。〕

アンケート調査結果

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	合計
開催地	東京1	東京2	東京3	札幌	仙台	福岡	岡山	名古屋	大阪1	大阪2	
開催日	H17.6.3	H17.6.10	H17.6.17	H17.6.21	H17.6.22	H17.6.28	H17.6.29	H17.7.5	H17.7.6	H17.7.6	-
参加者 対象地域	東京都、山梨 県、長野県	千葉県、神奈 川県、新潟県	茨城県、栃木 県、群馬県、 埼玉県	北海道	東北6県	九州8県	中国5県、四 国4県	岐阜県、静岡 県、愛知県、 三重県	大阪府、兵庫 県（滋賀県、 京都府、和歌 山県）	北陸3県、滋 賀県、京都 府、奈良県、 和歌山県（大 阪府、兵庫 県）	-
参加者数	43	47	39	14	35	51	49	40	43	36	397

出席率：84.6%

	第1回 (東京1)	第2回 (東京2)	第3回 (東京3)	第4回 (札幌)	第5回 (仙台)	第6回 (福岡)	第7回 (岡山)	第8回 (名古屋)	第9回 (大阪1)	第10回 (大阪2)	合計
回収数	43	46	39	14	35	50	48	40	43	36	394
回収率	100.0%	97.9%	100.0%	100.0%	100.0%	98.0%	98.0%	100.0%	98.0%	98.0%	99.2%

問1 参加者の構成

	第1回 (東京1)	第2回 (東京2)	第3回 (東京3)	第4回 (札幌)	第5回 (仙台)	第6回 (福岡)	第7回 (岡山)	第8回 (名古屋)	第9回 (大阪1)	第10回 (大阪2)	全体
食品関係業務経験者	44.2%	37.0%	51.3%	14.3%	34.3%	38.0%	27.1%	32.5%	25.6%	27.8%	34.5%
食品関係研究職経験者	11.6%	10.9%	2.6%	21.4%	8.6%	6.0%	10.4%	10.0%	11.6%	5.6%	9.1%
医療・教育職経験者	11.6%	8.7%	7.7%	21.4%	11.4%	16.0%	12.5%	12.5%	20.9%	11.1%	12.9%
その他消費者一般	30.2%	41.3%	30.8%	42.9%	42.9%	32.0%	50.0%	45.0%	41.9%	47.2%	40.1%
無回答	2.3%	2.2%	7.7%	0.0%	2.9%	8.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	3.3%

問2 モニター継続区分

	第1回 (東京1)	第2回 (東京2)	第3回 (東京3)	第4回 (札幌)	第5回 (仙台)	第6回 (福岡)	第7回 (岡山)	第8回 (名古屋)	第9回 (大阪1)	第10回 (大阪2)	全体
継続モニター	32.6%	26.1%	23.1%	21.4%	34.3%	46.0%	35.4%	27.5%	25.6%	38.9%	32.0%
新規モニター	67.4%	69.6%	76.9%	78.6%	65.7%	52.0%	64.6%	70.0%	74.4%	61.1%	67.0%

問3 満足度合

	第1回 (東京1)	第2回 (東京2)	第3回 (東京3)	第4回 (札幌)	第5回 (仙台)	第6回 (福岡)	第7回 (岡山)	第8回 (名古屋)	第9回 (大阪1)	第10回 (大阪2)	全体
満足	16.3%	19.6%	15.4%	28.6%	31.4%	22.0%	18.8%	22.5%	27.9%	36.1%	23.1%
だいたい満足	53.5%	58.7%	69.2%	35.7%	57.1%	56.0%	66.7%	55.0%	60.5%	50.0%	57.9%
どちらでもない	11.6%	6.5%	7.7%	7.1%	5.7%	4.0%	10.4%	20.0%	4.7%	8.3%	8.6%
やや不満	11.6%	6.5%	2.6%	14.3%	5.7%	6.0%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%	4.3%
不満	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	0.8%
無回答	7.0%	6.5%	5.1%	14.3%	0.0%	10.0%	2.1%	2.5%	4.7%	5.6%	5.3%

【講演「リスク分析の枠組と食品安全委員会の取組について」について】

問4-1 理解度合

	第1回 (東京1)	第2回 (東京2)	第3回 (東京3)	第4回 (札幌)	第5回 (仙台)	第6回 (福岡)	第7回 (岡山)	第8回 (名古屋)	第9回 (大阪1)	第10回 (大阪2)	全体
理解できた	51.2%	37.0%	53.8%	35.7%	34.3%	28.0%	31.3%	32.5%	34.9%	50.0%	38.6%
だいたい理解できた	44.2%	54.3%	46.2%	64.3%	51.4%	62.0%	60.4%	62.5%	60.5%	50.0%	55.3%
あまり理解できなかった	4.7%	8.7%	0.0%	0.0%	14.3%	6.0%	8.3%	5.0%	4.7%	0.0%	5.6%
理解できなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%

問4 - 2 参考度合

	第1回 (東京1)	第2回 (東京2)	第3回 (東京3)	第4回 (札幌)	第5回 (仙台)	第6回 (福岡)	第7回 (岡山)	第8回 (名古屋)	第9回 (大阪1)	第10回 (大阪2)	全体
非常に参考になった	37.2%	34.8%	35.9%	42.9%	48.6%	34.0%	33.3%	40.0%	39.5%	50.0%	38.8%
ある程度参考になった	60.5%	58.7%	59.0%	57.1%	51.4%	62.0%	58.3%	60.0%	53.5%	50.0%	57.4%
あまり参考にならなかった	2.3%	4.3%	5.1%	0.0%	0.0%	4.0%	8.3%	0.0%	7.0%	0.0%	3.6%
全く参考にならなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%

問5 - 1 内容がわかりにくかった点(問4 - 1で「あまり理解できなかった」、「理解できなかった」と回答した方のみ)

	第1回 (東京1)	第2回 (東京2)	第3回 (東京3)	第4回 (札幌)	第5回 (仙台)	第6回 (福岡)	第7回 (岡山)	第8回 (名古屋)	第9回 (大阪1)	第10回 (大阪2)	全体
説明に専門用語が多かった		2人			3人	2人	2人	2人	2人		13人
資料がわかりにくかった					1人	1人	3人				5人
聞き取りにくかった	1人	2人			1人	3人					7人
適切な説明時間が確保されていなかった	1人	1人							1人	1人	4人
その他	1人	2人			1人	1人	1人		2人		8人
無回答											

問5 - 2 参考にならなかった点(問3 - 2で「あまり参考にならなかった」、「全く参考にならなかった」と回答した方のみ)

	第1回 (東京1)	第2回 (東京2)	第3回 (東京3)	第4回 (札幌)	第5回 (仙台)	第6回 (福岡)	第7回 (岡山)	第8回 (名古屋)	第9回 (大阪1)	第10回 (大阪2)	全体
すでに知っている内容がほとんどだったから		2人	1人			1人	2人	1人	2人		9人
その他	1人	1人				1人	2人		1人		6人
無回答											

【講演「個別テーマについてのリスク評価の考え方と実際について」について】

問6 - 1 理解度合

	第1回 (東京1)	第2回 (東京2)	第3回 (東京3)	第4回 (札幌)	第5回 (仙台)	第6回 (福岡)	第7回 (岡山)	第8回 (名古屋)	第9回 (大阪1)	第10回 (大阪2)	全体
個別テーマ	新開発食品	遺伝子組換え食品等	微生物、ウイルス	汚染物質	農薬	かび毒・自然毒等	農薬	動物用医薬品	添加物	肥料・飼料等	
理解できた	39.5%	47.8%	38.5%	35.7%	34.3%	40.0%	22.9%	22.5%	41.9%	44.4%	36.8%
だいたい理解できた	51.2%	52.2%	53.8%	57.1%	51.4%	56.0%	62.5%	67.5%	46.5%	47.2%	54.6%
あまり理解できなかった	9.3%	0.0%	7.7%	7.1%	11.4%	4.0%	8.3%	10.0%	11.6%	5.6%	7.4%
理解できなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	2.8%	1.3%

問6 - 2 参考度合

	第1回 (東京1)	第2回 (東京2)	第3回 (東京3)	第4回 (札幌)	第5回 (仙台)	第6回 (福岡)	第7回 (岡山)	第8回 (名古屋)	第9回 (大阪1)	第10回 (大阪2)	全体
非常に参考になった	25.6%	58.7%	30.8%	28.6%	22.9%	50.0%	25.0%	30.0%	53.5%	55.6%	39.1%
ある程度参考になった	74.4%	41.3%	59.0%	64.3%	74.3%	48.0%	62.5%	65.0%	34.9%	36.1%	55.1%
あまり参考にならなかった	0.0%	0.0%	7.7%	7.1%	0.0%	2.0%	4.2%	2.5%	9.3%	2.8%	3.3%
全く参考にならなかった	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	8.3%	2.5%	2.3%	5.6%	2.3%

問 7 - 1 内容がわかりにくかった点（問 6 - 1 で「あまり理解できなかった」、「理解できなかった」と回答した方のみ）

	第 1 回 （東京 1）	第 2 回 （東京 2）	第 3 回 （東京 3）	第 4 回 （札幌）	第 5 回 （仙台）	第 6 回 （福岡）	第 7 回 （岡山）	第 8 回 （名古屋）	第 9 回 （大阪 1）	第 10 回 （大阪 2）	全体
説明に専門用語が多かった	1人		2人		1人		2人	4人	3人	1人	14人
資料がわかりにくかった								1人	1人		2人
聞き取りにくかった	1人		1人								2人
適切な説明時間が確保されていなかった					2人	2人	1人	1人		1人	7人
その他			2人		1人	1人	1人	1人	2人		8人
無回答											

問 7 - 2 参考にならなかった点（問 6 - 2 で「あまり参考にならなかった」、「全く参考にならなかった」と回答した方のみ）

	第 1 回 （東京 1）	第 2 回 （東京 2）	第 3 回 （東京 3）	第 4 回 （札幌）	第 5 回 （仙台）	第 6 回 （福岡）	第 7 回 （岡山）	第 8 回 （名古屋）	第 9 回 （大阪 1）	第 10 回 （大阪 2）	全体
すでに知っている内容がほとんどだったから			1人						1人		2人
その他			4人		1人	1人	1人	1人	3人		11人
無回答											

【意見交換について】

問 8 意見交換に充てられた時間

	第 1 回 （東京 1）	第 2 回 （東京 2）	第 3 回 （東京 3）	第 4 回 （札幌）	第 5 回 （仙台）	第 6 回 （福岡）	第 7 回 （岡山）	第 8 回 （名古屋）	第 9 回 （大阪 1）	第 10 回 （大阪 2）	全体
もっと短くてもよかった	4.7%	2.2%	2.6%	0.0%	0.0%	4.0%	4.2%	5.0%	0.0%	2.8%	2.8%
適当であった	51.2%	65.2%	66.7%	85.7%	68.6%	54.0%	66.7%	67.5%	72.1%	47.2%	62.9%
もっと時間が欲しかった	39.5%	32.6%	23.1%	14.3%	22.9%	32.0%	25.0%	17.5%	18.6%	33.3%	26.9%
無回答	4.7%	0.0%	7.7%	0.0%	8.6%	10.0%	4.2%	10.0%	9.3%	16.7%	7.4%

問 9 今後のモニター会議で取り上げてほしいテーマ

	第 1 回 （東京 1）	第 2 回 （東京 2）	第 3 回 （東京 3）	第 4 回 （札幌）	第 5 回 （仙台）	第 6 回 （福岡）	第 7 回 （岡山）	第 8 回 （名古屋）	第 9 回 （大阪 1）	第 10 回 （大阪 2）	全体
添加物	18.6%	17.4%	23.1%	28.6%	14.3%	20.0%	27.1%	10.0%	4.7%	8.3%	16.8%
農薬	7.0%	8.7%	10.3%	7.1%	0.0%	10.0%	4.2%	2.5%	7.0%	5.6%	6.3%
動物医薬品	9.3%	2.2%	2.6%	0.0%	14.3%	4.0%	4.2%	5.0%	11.6%	2.8%	5.8%
器具・容器包装	7.0%	4.3%	0.0%	0.0%	5.7%	4.0%	6.3%	7.5%	4.7%	2.8%	4.6%
化学物質	7.0%	0.0%	5.1%	0.0%	2.9%	2.0%	0.0%	5.0%	4.7%	2.8%	3.0%
汚染物質	2.3%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%	4.2%	5.0%	0.0%	2.8%	2.5%
微生物・ウイルス	4.7%	8.7%	2.6%	7.1%	2.9%	8.0%	6.3%	7.5%	4.7%	8.3%	6.1%
プリオン	0.0%	6.5%	2.6%	0.0%	0.0%	4.0%	2.1%	2.5%	7.0%	0.0%	2.8%
かび毒・自然毒等	7.0%	2.2%	7.7%	7.1%	2.9%	0.0%	6.3%	5.0%	4.7%	2.8%	4.3%
遺伝子組換え食品等	20.9%	2.2%	15.4%	14.3%	17.1%	8.0%	14.6%	12.5%	16.3%	25.0%	14.2%
新開発食品	4.7%	15.2%	10.3%	14.3%	11.4%	20.0%	8.3%	27.5%	16.3%	16.7%	14.5%
肥料・飼料等	0.0%	2.2%	0.0%	7.1%	5.7%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%
無回答	11.6%	26.1%	20.5%	14.3%	22.9%	14.0%	16.7%	10.0%	18.6%	22.2%	17.8%

問10 会議全体についての感想や御意見など

会議の運営に関するコメント

【会議全般について】

全般的に「有意義な会であった」、「参考になることが多かった」などの指摘が多数あった。一方、内容が専門的すぎるとした指摘や、もっと日常生活に直結した問題について聞きたいといった意見もあった。また、講演や説明の中の専門用語やカタカナ語が多いとの指摘も目立った。

進行に関しては、「進行はスムーズで良かった」(福岡)「活発な意見交換で良かった」(東京3、仙台、大阪1)といった意見もあったが、意見交換の進め方については、「多くの人の意見が聞きたいので、なるべく一人一回の発言にした方が良い」(東京1、東京2)「質問も回答も手短にすると、もう少し大勢の人の意見などが聞けたのではないか」(東京1、東京2、仙台、岡山)「質問の内容を司会者が絞り込んで良いのではないか」(東京1、東京3)など、多くの人に発言機会を確保するための工夫が必要との指摘があった。

ほとんどの会場で、可能であれば、このような会議の回数を増やしてほしいとの指摘があったほか、「地域ごとの開催も良いが、職務ごとの開催を希望する。話や質問のレベルが違いすぎて素人には何のことかさっぱりわからない。同じレベル(職務)なら発言しやすい」(名古屋)「モニターの参加動機はいろいろとある。小さい単位(10名程度)で回数をこなすのがいいのではないか」(福岡)といった指摘もあった。

【意見交換と会議時間について】

充実した意見交換が活発に行われた、質問、意見に対する説明が丁寧だったなどの指摘があった。

一方、意見交換や質疑応答の時間配分をもっと望む意見も少なくはなく、一部で講演時間を短くして、質疑応答時間を長くしてほしいといった意見、事前に質問を提出させるなど質疑応答の進め方の効率化の提案もあった。

他方、会議本来の主旨と違う内容の意見や質問も見受けられたなどの指摘(東京1、仙台、福岡、大阪2)もあった。

このほか、意見交換について、「質問に対する説得を行うのではなく、もっとフランクに問題点を検討しあえると良いと思う」(札幌)「各県、各職種等の集まりなので、1時間弱を講義にし、休憩後、チームを作って、各チームでそれについて検討をしあい、それを全体にかけるような会議はできないか」(東京3)「小グループに分かれて思っていることを出し合うなどしても良いのではないか」(東京3)「内容が充実していてよかったが、参加している人達の意見交換会(フリーで)をしていただけるとより良いと思う」(名古屋)という意見があった。

説明内容等に対する感想・意見等(会議の運営以外の主なコメント)

【東京1】

- ・ 特定保健用食品について自分の思い込みがあった。参加することによって誤解が解け、情報を得ることができた。
- ・ 新開発食品についての講演は大変勉強になった。さらに、質疑のところではアレルギーについて説明があり、主婦では興味を持っている人が多いので、早速多くの人々に話をしようと思った。
- ・ 参加された方から意見や情報を多く聞けて大変勉強になった。

- ・初めての参加でしたが、食品に関して一生懸命取り組んでいられることが理解され、国民の一人として安心した。

【東京 2】

- ・今まで疑問に思っていた遺伝子組換え食品のことがわかり安心した。
- ・遺伝子組換えの是非論（良否）は、まだまだ早過ぎると思う。大半が安全というムード、意見が示されたが、その安全についてはほんの入り口に過ぎないもので、本物はこれからと考える。
- ・GMO に質問が集中したのにおどろいた。GMO の知識の普及と広報を適当な機関により、継続的に実施する必要性を感じた。また、安全の話に重点をおき、安心については2 番目にすべきと思う。

【東京 3】

- ・多少専門的になり過ぎたのではないかと？主対象がモニターなので、もう一步台所・食卓（食の現場）に近づいたテーマが加われば、なお良かったと思う。
- ・リスクマネジメントに関する考え方が良く理解できた。
- ・モニターとしての役割を大切に活動していきたい。

【札幌】

- ・知らないことの多さに自分自身驚いている。これを機に勉強したいと思う。
- ・新しい情報が得られて、参加してよかったと思った。

【仙台】

- ・農薬の安全性は大事な課題です。活発な意見交換でびっくりした。私もBSE、農薬にもう少し関心をもって生活したいと思う。
- ・皆様が一生懸命にやっている事もよくわかった。今後もこのような会合はぜひ続けて下さい。
- ・各県のモニターの方々の実生活やご自分の専門分野に基づいたお話をいろいろと聞くことができ、とても貴重な会合だった。
- ・自分の知識不足であると感じた。これから学ばなければならないことが多く、また学んだことをもとに食の安全に対して知人にも広めていけたらと考える。

【福岡】

- ・かび毒の説明は大変参考になった。書物で得られぬ知識をまとめて説明され、良い機会に恵まれた。
- ・ゼロリスクの考え方を周囲に話して理解を深めたいと思った。サプリメントは元より、体に良い魚にもどれだけ残留薬品値があるのか目に見える表示があればいいと思った。お話はとても面白く、もっと聞きたいと思った。次回楽しみである。
- ・委員会の役割が良くわかった。消費者が食品に関心が大いにあるのが良くわかった。

【岡山】

- ・質疑応答も活発で色々な勉強をすることが出来た。今後のモニターとしての活動に大変勉強になった。
- ・農薬については、漠然と不安があったが、少し理解できるようになった。まだ解りにくいものもあるので、様々な議題を取り上げて説明を聞かせていただければ良いと思う。
- ・農薬についてのリスク評価の考え方の講義について、モニター全体の雰囲気として少し難し

- すぎて、質問も平易なものに終始して、あまり有意義ではなかった。
- ・ 質疑・意見交換で様々な考え方がある方がいることを知ることができ、参考になった。

【名古屋】

- ・ 食品安全委員会の取組が非常によくわかり、BSE問題や動物用医薬品についてのリスク評価など、今まで知りうることでできなかった諸問題についても理解できてとてもよかった。
- ・ 理解することで、今まで不安であった部分が幾分か解消された。
- ・ 食品安全委員会が厳密なリスク評価をされていることがよくわかった。今後、重要なのは、メーカーや生産者がその基準値や規制をきちんと守ることだと思う。我々消費者も受け身になるだけでなく、安全な食品を求める積極的な姿勢を示すことが大切だと思った。

【大阪1】

- ・ 大変参考になった。BSEについてもですが、特に添加物についての講演が分かりやすく、今まであまり選ぶことのなかった添加物入の加工食品に対しての不安が少しとり除かれた。今日聞いたことを近い人、学校の授業の方で取り上げていきたいと思う。
- ・ 議事については専門用語も多く、私自身もう少し勉強していきたいと思う。食品安全モニターとして、今後も情報提供していけたらと思う。
- ・ 消費者としてはリスクゼロを目指してほしいが、なかなか難しい様な事がよくわかった。消費者としては、いつも選ぶ権利を持ちたいです。その為には、表示（検査済みなど...）などを義務づけてほしい。（不当表示のないように、監視強化もお願いしたい）

【大阪2】

- ・ 今回初めての参加だったが、予想以上に多くの物質について検討されていることに驚くとともに、それだけ自然ではない世界で生活していることを改めて感じた。リスク管理の重要性について、自分なりに理解でき、よかった。
- ・ リスクコミュニケーションについて再認識した。「誤解」から生ずる不安をなくしていくことが大切だと改めて思った。
- ・ 参加者各位が真面目に各問題に取り組まれている様で、自分にも刺激と参考になった。今後共、勉強したいと思う。

（注）東京1、東京2、東京3、札幌、仙台、福岡、岡山、名古屋、大阪1、大阪2の記述については、それぞれ東京都（6/3）、東京都（6/10）、東京都（6/17）、札幌市（6/21）、仙台市（6/22）、福岡市（6/28）、岡山市（6/29）、名古屋市（7/5）、大阪市（7/6午前）、大阪市（7/6午後）開催会議での意見等であることを示したもの。